

「熱帯気象研究連絡会」の発足について

2014年3月の気象学会の第37期第14回理事会において、以下の趣旨に基づく「熱帯気象研究連絡会」の発足が認められましたのでお知らせします。

趣旨

熱帯域は、地球放射エネルギー収支における最大の入力域であり、このエネルギーが熱帯気象によっていかに分配されるかは、地球大気の循環に大きな影響を及ぼす。また同時に、赤道域は、激しい対流活動を通じて、対流圏を超え遥か上空までの大気の上下結合にとって重要な役割を果たす。中緯度気候に対する熱帯気象の役割についても重要性が認識されるようになった。しかしながら熱帯気象においては、湿潤対流が主役となるため、中緯度の大気力学のような線形理論を主軸とする理論体系が整っていない。一方、大循環モデルのような全球数値モデルの手段においても、湿潤過程の表現法が確立していないため、熱帯域の気象を現実的に再現すること自体が大きな課題となっている。

熱帯気象学には、たとえば、メソスケール対流システム、台風、積雲対流と結合した赤道波擾乱、Madden-Julian 振動、そしてそれらのマルチスケール相互作用など、その仕組みと役割について大変興味深い問題が未解明のまま残っている。一方で、衛星観測の多様化とデータの長期蓄積、赤道域観測網の充実、全球雲解像モデルの成功、また、大循環モデルにおける新しいパラメタリゼーションなど、熱帯気象学の道具立ては近年大変充実してきた。

本研究連絡会は、湿潤対流を主とした熱帯気象の理解を深めるため、最新の研究成果を発表議論することを目的とする。また、この連絡会をひとつの足がかりとして若い研究者の芽が育つことを期待する。

代表：高薮縁（東京大学）

事務局：佐藤正樹（東京大学）

ホームページ：http://157.82.240.172/~satoh/tropical_meteorology/index.html

本研究連絡会は熱帯気象研究会、熱帯降水系研究会を主催しています。今後も、熱帯気象研究のさらなる発展に貢献していきます。

熱帯気象研究会幹事：佐藤正樹（東京大学）、重尚一（京都大学）、高薮縁（東京大学）、寺尾徹（香川大学）、西憲敬（福岡大学）、堀之内武（北海道大学）、増永浩彦（名古屋大学）、松本淳（首都大学東京）、村田文絵（高知大学）、安永数明（富山大学）、山田広幸（琉球大学）

熱帯降水系研究会世話人：大内和良（JAMSTEC）、吉崎正憲（立正大）、Swadhin Behera（JAMSTEC）、高橋桂子（JAMSTEC）